

現場見学会 次第

主催 一般社団法人大阪建設業協会
協力 株式会社久本組・日野建設工業株式会社共同企業体
日時 平成26年12月17日(水)
14:00～16:00
場所 今池水みらいセンター水処理施設(3-2系) 築造工事その2

1. 建設現場概要説明等

2. 現場見学

3. 質疑応答

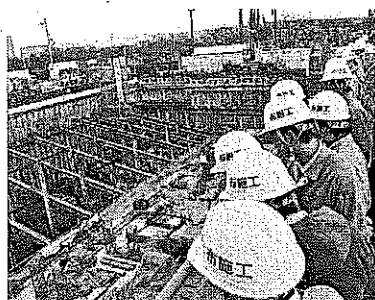
見学時には引率者が付きますので、指示に従って行動をお願いします。

【注意点】

- ① 安全のため、見学エリア以外には立ち入らないようお願いします
- ② 現場作業中の機械に注意。(引率者の指示に従ってください)
- ③ 工事機械、工具等には触れないようお願いします。
- ④ 足元が悪いので注意願います。

布施工科高校生徒ら38名参加

大建協が今池水みらいセンターで見学会



大阪建設業協会は17日、松原市天美西で施工センター水処理施設(3—2系)築造工事その2の現場見学会を行った。

参加者は、大阪府立布施工科高等学校・建築設備系1年生5名と2年生の生徒26名に引率教員7名の合計38名で、普段は見ること

ができない現場の状況を目の前にした生徒は真剣な表情で、かつ興味深く見学をしていた。

現在は床盤の鉄筋組立とコンクリートの打設を行っており、この作業は16年1月まで行われる予定。施工は久本組・日野建設工業JVが担当。工期16年2月29日。事業費約10億円。住所は松原市天美西7。

見学会では、施工を担当する山下剛一久本組・今池水みらい作業所現場代理人監理技術者が本工

事の概要等を説明し、後藤梨紗大阪府南部流域下水道事務所今池管理センター副主査が今池水みらいセンター水処理施設概要・目的について説明した。その後、水処理施設内の処理設備と本工事の施工状況を見学した。

また、最後に学校を代表して2年生の小川哲平君が「普段、見ることはできないコンクリートの打設などを見られ、とてもいい経験になりました」と感謝を述べ、見学会は幕を閉じた。

布施工高生招き見学会

大建協

府の下水処理場建設現場

躯体工事中の現場を見学する生徒たち



大阪建設業協会（大建協、葛田守弘会長）は17日、大阪府立布施工科高

校（東大阪市）の生徒31人を招き、大阪府松原市の今池水みらいセンターで下水処理場建設現場の見学会を開いた。現場では底版コンクリートの打設が進んでおり、生徒たちは土木工事の迫力を

感じた。見学会は、久本組・日野建設工業が施工を担当する「大和川下流域下水道今池水みらいセンター」の現場で開催。今年1月から工事が本格化し、掘削や支保工などを終え、コンクリートの打設を始めており、16年2月末に竣工予定。竣工後は建築や設備工事を進め、18年度の完成を目指す。完成すれば、最初沈殿池として利用する。

建築設備系の1年生5人と2年生26人、引率の先生ら約40人が参加。見学会前に、久本組の山下剛一所長が工事概要を説明し、10トンプで3200台分の土砂を掘削

したことや、50リットルを第一に工事を進めていくと回答。仕事のやりがいは「完成した時の達成感がある」と答え、建設業界に興味のある生徒に對しては、「何でも興味を持ち、知りたいと思う気持ちが大切」などと話していた。

見学会後、生徒から「土木工事が必要な資格は何ですか」「仕事のやりがいは」「1番気をつけていることは何ですか」などの質問があり、山下所長が土木施工管理技士などの資格が必要で、安全

最後に2年生の小川哲平君が「普段は見られない所を見学でき、いい勉強になった。来年は3年生になるが、社会に貢献できるように一生懸命頑張りたい」と感謝の言葉を述べた。

一般社団法人大阪建設業協会は十七日、松原市天美西七で建設が進む「大和川下流域域下水道今池水みらいセンター水処理施設(3-2系)築造工事その2」(施工:久本組・日野建設工業JV)の現場に府立布施工科高等学校建築設備系の生徒三十一人(二年生二十六人、一年生五人)を招き、見学会を行った。

普段見ることのできない底盤部分のコンクリート打設状況などを興味深く見学した

大建協が布施工科高生招き見学会

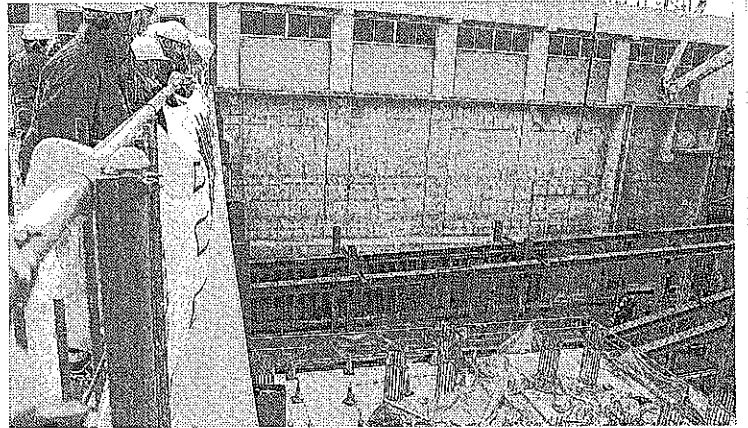
現地集合した一行は、工事概要や下水道の

仕組みの説明等を聞いた後、山下剛一JV所長の案内で、稼働中の水処理施設に入って、最初沈殿池、生物反応槽、最終沈殿池を順番に見て下水がきれいな水に変わって



建設業界を目指す生徒から寄せられた質問に丁寧な回答を山下所長

いくプロセスを学び、続いて工事中の現場で、底盤部分のコンクリート打設や本体鉄筋工が進む様子を目の当たりにした。見学を終えた生徒から



普段見ることのできない底盤部分のコンクリート打設状況などを興味深く見学した

「仕事のやりがい、大変は「常に前を向き、仕事さについて」「土木工事に興味を持ち、なんでも必要な資格は」「工事を知りたいと言う気持ち現場で問題が発生した場合、どのよう解決してとメールを送った。

「今池水みらいセンター」等の質問が寄せられ、山下所長が丁寧には、大阪市、堺市、松原市等計八市の水質保全に興味があり、入職して、大和川沿いの低地の浸水対策を目的として、平成二十五年末の

今池水みらいセンター水処理施設(3-2系)築造その2 久本組・日野建設工業JV

処理能力は二三八、〇〇〇立方メートル。同工事は、3-2系水処理施設の最初沈殿池の土木工事。二十五年十月の着工以来、四万三千四十八時間の無事故を継続中で、進捗率は約三七〇。二十八年度の竣工を目指している。

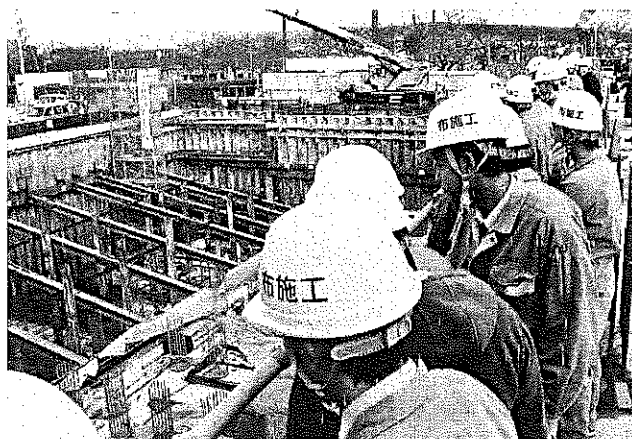
12月19日(金) 建通新聞

大阪建設業協会（葛田守弘会長）は17日、「今池水みらいセンター水処理施設3-2系築造工事その2」の工事現場で、高校生対象の現場見学会を開いた。布施工科高校の建築設備系の生徒約30人（1～2年生）が参加。日常見ることのないコンクリート打設作業など築造中の水処理施設を見て回った。

同現場は、久本組・日野建設工業JV（山下剛一所長）が施工を担当。10年かけて段階的に築造する水処理施設3-2系のうち、最初沈殿池部の建設が進められている。完成予定は2016年2月。発注者は大阪府。

布施工科高生徒30人が参加

今池水みらいC水処理施設築造／大建協現場見学会

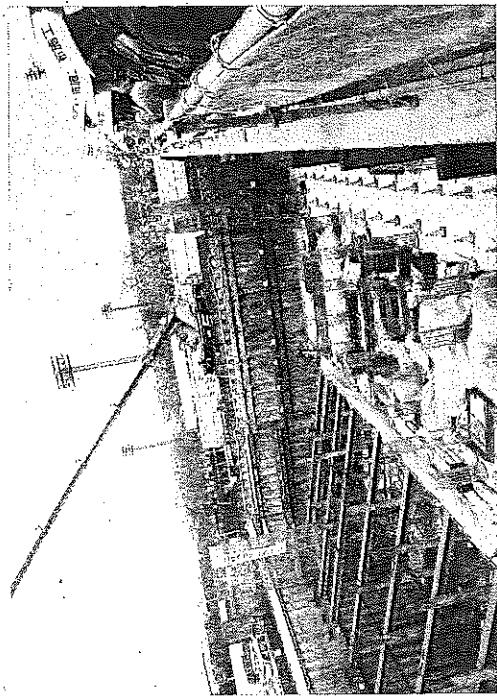


普段見ることができないコンクリート打設作業を見学

当日は、生徒と引率教諭と一緒に稼働中の既存水処理施設の内部を見学し、その後、建設現場に移動。底板コンクリートの打設作業を目の当たりにした。生徒の一人は、「土木の現場は初めて。迫力がある」と感動した様子だった。

見学後には生徒から山下所長に対して、やりがいや勤務時間、必要な資格など、仕事や現場についての素朴な疑問、質問が投げ掛けられた。「現場の職人と仲良くなれる秘訣（ひけつ）は」という問いに山下所長は、「人として当たり前の行動、言動をすること。それからあいさつかな」と入職してからの心構えを説いた。

大建協の 現場見学会



築造工事現場(写真右)を見学する生徒たち

大阪建設業協会(菅田守弘会長)では、高校生を対象とした現場見学会を十二月十七日、「大和川下流域下水道今池水みらいセンター」水処理施設(三二系)築造工事その二(大阪府松原市天美西七十自)作業所で開催し、大阪府若布施工科高等学校建築設備系二年生六人及び一年生

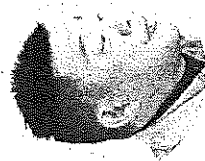
今池水みらいセンター水処理施設(3系)築造工事②

布施工科高校の31人が参加

人が参加した。

この見学会は若布者に対する人職健進活動の一環として、大阪府下の建設系学科を有する高等学校の生徒を対象に同協会が毎年主催しているもの。

同工事は、関連する大阪府、堺市、八尾市、富田林市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市の水質保全を目的とした下水道事業の一環で、今池水みらいセンター内に三二系水処理施設を新設するもの。発注者



山下所長

は大阪府南部流域下水道事務所。施工は久本組・日野建設工業JVが担当している。

見学会では初めに、南部流域下水道事務所池管理センターの職員が下水処理場について、次いで現場代理人の山下剛一氏が工事概要を説明した。

その後、生徒たちは水処理施設で生物反応槽などの見学に続き、工事作業現場へ移動。現在、最初沈殿池底板のコンクリート打設が行われてい

る現場を見て回りながら、打設の難しさを作業内容の説明を受け、熱心に耳を傾けていた。

見学会終了後は、質疑応答が行われ、生徒が「仕事のやりがいや大変さについて教えて下さい」との質問に対し、山下所長は「作業中の苦労はあるが、多くの人に役立つものをつくり、完成時には大きな達成感がある」と述べたほか、建設業へ入職するにあたっての心構えとして、「常に前向き、先輩の意見を聞きながら、仕事に興味を持ってほしい」と期待を寄せた。

工事は、本身体業として掘削工四三〇〇立方メートル、埋め戻し三八〇〇立方メートル、残土処分二三、一〇〇立方メートル、本工体仮設工として仮設員鋼杭八三本、支保工設置撤去七〇本、アンカー打設(一九・五×二九)三三本、鋼矢板打設(SY三九〇R・五)一六枚、鋼矢板引抜(SYV型L二四・〇)一六・五(九四七枚)地盤改良七五、〇〇が、行われるほか、本工体業工、構造物撤去工などが行われる。現在の進捗率は三七・七%で、工期は平成二十五年十月二十五日から平成二十八年一月二十九日。

施工：久本組・日野建設工業JV